

「僕にとっての宝物～八重山諸島での思い出～」

村田 悠 13歳 神奈川県横浜市

八重山諸島は、石垣島、西表島など、多くの島からなる自然豊かな場所です。訪れたのは僕が小学校を卒業した春休み。中学の入学祝として母が計画してくれました。

沖縄には行ったことはありましたが“八重山諸島”という言葉聞いたのは、この時が初めて。地図を見ると台湾がすぐそこで日本なのに不思議な感じです。ガイドブックには、西表島は「イリオモテヤマネコ」や「カンムリワシ」など希少な動物がいて独自の生態系があること、竹富島には日本一美しいビーチ、伝統文化や集落が残っているとあり、どんな所が想像をしながら出発前からワクワクしていました。

飛行機と船に乗り八重山諸島の一つ西表島へ到着。シュノーケルで見た珊瑚も綺麗でしたが、特に思い出に残っているのは、ナーラの滝を目指したトレッキングです。実は母が体調不良となり、迷いましたが僕はひとりでツアーへ参加することにしました。最初は心細かったけれど、西表島の森は刺激がいっぱい。見たことが無い植物も多く夕食に出た“ヒカゲヘゴ”もありました。大きなぜんまいみたいなヒカゲヘゴが自生する様子は迫力があって、最初にこれを食べようと思った人はすごいと思います。森の中で休んだ時には、ちょろちょろ流れる川のせせらぎや小鳥のさえずりに耳を傾け、とても快い気分になりました。片方が崖という足場の悪い道では「落ちたらどうしよう」とドキドキしながら、森のガイドの人に励まされ頑張りました。ついに森の奥深く、目指していたナーラの滝に着いた時の感動や爽快感は、今でも忘れられない格別なものです。普段は自分の事ばかり考えがちな僕ですが、「お母さんにも味あわせてあげたかった」と思うほど、素晴らしい体験でした。

竹富島では、地域の人々との出会いが印象に残っています。自分で獲ったモズクで“モズクそば”を作ることになり海へ行きました。大量のなまこを踏まないように気をつけながら獲っていると、バイクの荷台一杯に海藻を積んだお爺さんと出会いました。凄いなあとびっくりしていたら「沢山獲って知り合いに送るんだよ。美味しいから喜ばれるんだ」と教えてくれました。翌日は、月桃という植物の葉を編んでゴザを作る為、工房へ向かいました。するとそこには、昨日の海藻のお爺さんがいました。お爺さんは海藻だけではなく伝統工芸の名人だったのです。ゴザを編みながら、いろいろな島の話をしてくれたのが楽しかったです。

正直言うと、僕は家でテレビを見たりゲームをしたりするのも好きです。でも旅へ出て、地域の人と触れ合い、いつもと違う景色を見て、新しいことに挑戦することは、家では味わえない経験で、心と体が元気になると思います。八重山諸島に行ってからもうすぐ一年が経ちます。八重山での体験や人との出会いは、思い出すと元気になる、僕にとっての宝物です。次回訪れるときには、何か僕が島の人を元気にできないかと考えています。